

和光

発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700

国立療養所 奄美和光園

電話 (0997) 52-6311 FAX (0997) 53-6230

URL <http://www.nhds.go.jp/~amami/>

平成28年11月1日
(2016)

第103号



■表紙	1
■平成28年度敬老祝賀会	2～4
■病室で100歳の内閣総理大臣表彰を受けたSさん	4
■平成28年度県庁訪問・県内めぐりに参加して	5
■平成28年度ゲートボール大会	6
■焼き芋・お月見会	7

■防火訓練の実施	8～9
■南大島バスレクリエーションに参加して	10
■第28回ハンセン病コ・メディカル学術集会に参加して	11～12
■平成28年度実習指導者講習会に参加して	12
■新人紹介・和光文芸	13
■お知らせ・人事異動・和光園日誌・編集後記	14

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



ルリカケス

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

平成28年度 敬老祝賀会

平成28年9月15日(木) 午後1時30分、加納園長から「笑うことは元気の秘訣であり、本日の敬老会では大いに楽しんでいただき健康長寿を願います。」との挨拶で開会いたしました。入所者代表の山田相談員からは、「当園は入所者数32名で最小規模の療養所であるが今日の敬老会にたくさんの方が参加して元気そうな姿を見るとホッとする、そして健康でいられることを忘れないことが大事だ。」という和光園入所者の現状および健康への感謝の言葉がありました。そして来賓代表として、奄美市長（吉富奄美市保健福祉部長代読）からは、「戦前、戦中、戦後そして今日に至るまで高齢者の方によって奄美発展へ尽力していただいた。」との感謝のお言葉を賜り、今年度100歳を迎える方への表彰状と記念品贈呈及び80歳以上の入所者に対して敬老祝金贈呈がありました。続いて奄美市社会福祉協議会会長から100歳を祝う記念品の贈呈がありました。

式典は厳粛なムードで進行し、祝唄、祝舞、全員による和光園歌の斉唱により第一部を終了いたしました。

二部の余興に入ると今度は一転して、会場内は陽気な雰囲気となり、日頃の練習で歌い込まれた入所者によるカラオケ

オンステージに始まりました。続いて、ゆらいの郷「世界にひとつだけの花」では入所者と職員による合唱で美しい振り付けと歌を披露していただきました。治療棟「兄弟くわあ」の踊りでは観客みんなに元気なパワーを頂きました。病棟「きよしのズンドコ節パートⅡ」は7月の夏祭りで披露されたものよりバージョンアップして楽しさ溢れる軽快な踊りでした。看護課キョラムンズ友情出演・子牛1頭「祝い!! ワイド節」では農婦のもんぺ姿でスコップ三味線をかかえて会場内を踊りながら歩き、行列先頭の牛1頭が暴れながら回る姿は、観客全員を笑いの渦に巻き込みました。式典最後の挨拶では、事務長から「国内最高年齢116歳の田島ナビさん（喜界町）をお手本に入所者の方も長生きして欲しい。和光園でも医療、看護、介護のサポートをして尽力していきたい。」との今後の抱負が語られました。

最後になりましたが、園の行事を通じて入所者の方に少しでも楽しいひとときを実感していただくとともに末永くご健康で暮らしていただければと願っております。

福祉室長 磯部 武嗣

治療棟は、当日の敬老会に参加する職員の人数も少なく、踊りらっか（素質）のない2名が、知人から祝いの席にふさわしい賑やかな群舞を習いに行き、職場でメンバーに教える段取りをしました。練習の時、踊りの出だしもはっきりせず、全員揃って練習をする時間もなく、「回る時は、どの足が先？手と足の振りが難

しい。もっと簡単に出来ないの？」と不安な言葉が聞かれました。

本番では、普段スッピン介護長もバッチリ化粧をし、「踊りらっかがないから」と可愛らしく、豆絞りタオルをあねさん被りで踊る姿に、入所者も喜んでいました。「入所者に喜んで貰えるのが一番。間違っても愛嬌を振りまいて、舞台

ではひとつひとつの動作を大きく」をモットーに7名のメンバーで出場しました。踊り終えた後、「いつ練習したの？上手だったよ」との誉め言葉をもらい、お祝いの席を盛り上げることが出来て良かったと思いました。最後のワイド節では、見た目のインパクトに笑いが出て、入所者の頬も緩みっぱなしで、一緒に踊り大

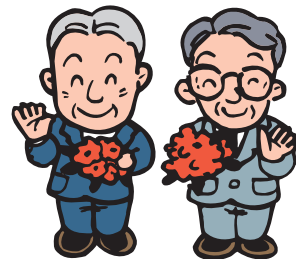
いに盛り上がりました。一般舎の入所者からは、「今年はいつもより盛り上がり、とても楽しかった。来年も楽しみじゃ」と喜ばれ、思い出深い敬老会となりました。

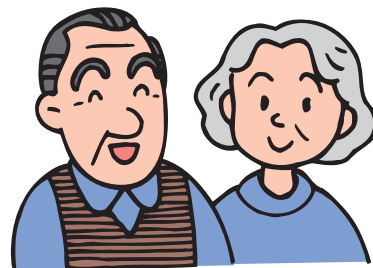
治療棟看護師 榮 あさえ

ゆらいの郷では入所者と一緒に楽しもうということで、入所者とともに「世界にひとつだけの花」を振り付きで行いました。健康体操の時間やカラオケの時間、夕食前などにみんなで練習を重ねてきました。本番当日は、みんなとても緊張しぎこちなかったのですが、本番になるとみんな本領を発揮し楽しく披露することができました。余興を終えた後は、各部署の余興や島唄などを聞いて楽しみまし

た。特に、ワイド節の「子牛」を見て涙を流してとても喜ばれていた入所者もいました。参加されていない入所者もいましたので敬老会のDVDができれば、一緒に観て楽しみたいと思います。来年もみんなで余興に参加できるように企画したいと思います。

不自由者棟看護師長 田中 浩二





病室で100歳の内閣総理大臣表彰を受けたSさん

病棟では、敬老会の翌日の9月16日に、数え年100歳を迎えたSさんの「内閣総理大臣賞授与式」が行われました。Sさんは、敬老祝賀会を楽しみにしていたのですが、体調を崩してしまい残念ながら当日は会場へ行くことができず、代理の者が表彰を受けました。病棟のスタッフは、祝賀会に参加できなかったSさんが表彰を喜べる場をつくれないものかと考え、「病室での表彰式」を企画しました。祝賀会の翌日Sさんの病室には加納園長、主治医の有働先生、馬場先生、吉原総看護師長、後藤副総看護師長、治療棟と不自由者棟看護師、病棟の深夜勤務の看護師・日勤看護師・介護員など多く

の関係者が詰めかけてSさんを囲む中で、加納園長から表彰状が授与されると、病室内は拍手と「おめでとうーSさん」の歓声で活気あふれる場となり、Sさんは「ありがとう、ありがとう、生きていてよかった、朝早くからうちのために来てくれて嬉しい」と笑顔で喜びの感想を述べて下さいました。Sさん、本当におめでとうございます。これからも、Sさんにご家族がお元気で楽しい日々が送れるように、お世話をさせて頂きたいと思います。

病棟看護師長 岩越 はるみ

平成28年度 県庁訪問・県内めぐりに参加して

秋冷の心地よいこの時季、10月20～21日の一泊二日にて「県庁訪問・県内めぐり」に参加しました。参加者は、当園から2名、星塚敬愛園から8名、菊池恵楓園から3名、多磨全生園から1名の計14名の入所者の方々、社会復帰者1名、各施設同行者17名、県職員8名の総勢40名でした。大型バス3台に乗り込み、皆で楽しい時間を過ごしました。

初日は、鹿児島ふるさと物産館にて昼食後、池田湖パラダイスにて大うなぎを見物しました。一匹と思っていた大うなぎが多数いることに驚きましたが、その驚きよりもお土産巡り・試食会に花がさきました。夕方には指宿いわさきホテルに到着し、温泉に入られる方、大きなホテルの内部や庭を探索される方、それぞれゆっくり過ごしました。夜の懇親会では、豪華なお食事とカラオケ大会が行われ、当園からの参加者も一曲歌声を披露し、たくさんの拍手をいただきました。「〇〇さんは、元気?」「〇〇園の住まいは変わっていない?」等、旧友を懐かしむ声も聞かれ、和やかな夜を過ごすことができました。

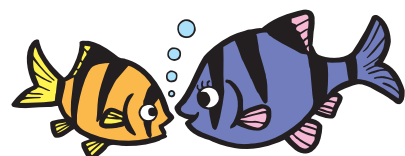
2日目は、かごしま水族館を見学後、



奄美の里にて昼食、県庁に向かい三反園鹿児島県知事との懇談会に出席しました。三反園知事は「元気な姿にお目にかかれたことをたいへんうれしく思う。」「安心して差別のない暮らしができる鹿児島を」「今後もお体に十分留意されて下さい。」等のお言葉を述べられました。代表で話された岩川星塚敬愛園自治会長より15回目の県庁訪問が開催された喜びの言葉や、今後のハンセン病施設に関する要望、協力への依頼が述べられました。その後、全員で記念撮影し各施設へ解散となりました。

短い日程ではありましたが、参加者にとっては長時間の乗り物移動による疲労や膝の痛み等もありました。それにもまして旧友との再会や交流、変わりゆく鹿児島の風景・思い出の地を巡ることはとても有意義で価値ある時間を過ごせたことを実感しました。開催・ご協力いただいた県職員の方々に深くお礼を申し上げますと共に、来年も入所者の方が健康で参加されることを願っております。

治療棟副看護師長 窪田 マキ



平成28年度 ゲートボール大会

去る10月8日(土) 親善ゲートボール大会が開催されました。

私は今年の4月に当園に来たので初めてのゲートボール大会になります。今回は主に記録係として参加させていただきました。たくさんの方々が集まってきたのでとても驚きました。前日に雨が降って当日は快晴のため蒸し暑い中で選手含め関係者の方々は大変でしたが、それに負けず開会式から閉会式まで賑わいが絶えることがなかったことに私は驚きました。

開会式が終わり、選手の方々がスティックを持ってそれぞれのコートへと向かい、ウォーミングアップ後すぐに試合が始まりました。試合時間は25分という短い時間の中でも第1試合から白熱した展開になり、対戦中のチーム、観戦中のチームから歓声が上がり想像以上の盛り上がりでした。

私自身ゲートボールをしたことは一度も経験がなかったためどう動いたら良いか分からなかったのですが、スムーズに試合が行われているのと選手の方々の白熱した雰囲気によって圧倒され刺激になりました。一人一人が第1ゲート、第2ゲートと次々とボールを見事に入れていき、ゲートボールというスポーツはこんなにも熱いスポーツなんだと改めて感じました。

そして大会の流れが打ち合わせなしで行われたものとはとても思えないくらいスムーズな進行でした。私は記録係で選手の名簿を記入して集めて試合の審判に渡す役割をしていました。皆さん真剣なまなざしでゲートにむけてボールを打ち込んでポイントを取っていき、勝利したチームはハイタッチをしたりして勝利を喜んでいました。



私も和光園チームで1度だけ打たせてもらったのですがゲートには入らず、周りからは「もっとよく狙いなさい」とイジられたりと楽しい雰囲気の中でプレーさせていただきました。

午後の後半戦となり、皆さん試合の合間にお弁当を食べて力をつけて臨んでいました。私も外野から和光園A・Bチームの勇敢なプレーを見て当園のチームも他のチームに負けていない熱を感じさせるような試合の展開でした。

そしてさらに驚いたのが和光園チームに相手チームや審判が打ち方のコツやどこに打ち込んだら良いかをアドバイスしていました。そのアドバイスで和光園チームは勢いにのり始め試合の流れが変わったように見えました。優勝は出来ませんでした。この暑さの中多くの人たちが楽しい時を過ごすことが出来たように思えます。そしてゲートボール未経験であった私にとっては新たなチャレンジが出来たととても楽しかったです。このような大会に参加出来たのも当園入所者の方およびスタッフはじめ、地域の皆様のおかげだと感じております。

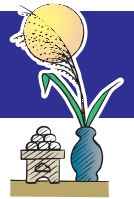
来年もこの大会に参加出来たらと思っています。皆様ありがとうございました！

研究検査科 川崎 岳史





焼き芋・お月見会



だんだんと涼しい季節に変わってきた10月17日の夕方から、ゲートボール場にて「お月見・焼き芋会」が行われ、入所者12名の方が参加しました。それまで雨の日が続き開催できるか心配でしたが、当日は見事な晴れ間がみられました。お芋は事前に調理師に蒸してもらい、サービス委員は、「美味しくな一れ。」と気持ちを込めてお芋を丁寧に焼き上げました。その甲斐あってか、ホクホクした甘い焼き芋ができ、入所者から「甘い、とてもおいしい。」と嬉しい言葉をいただきました。入所者からの差し入れの豚骨もとても好評で大変おいしかったです。ありがとうございました。

焼き芋を食べた後は、職員が輪になり「炭坑節」を踊り、入所者も楽しそうに見物していました。また職員の相撲では、入所者の応援に熱が入り、勝負がついた時には大きな歓声が聞かれ大変盛り上がりました。力士ぞろいの相撲に影響され、「僕も腕相撲なら勝てそうだ、やってみようか。」の声が聞かれたり、男性職員

が女性職員に投げられるシーンがあったりと皆で大笑いをしました。

陽がだんだんと沈み、月はまだかと終了時間まで待ちましたが、残念ながら主役の「月」は現れず、その2時間後に山から現れたとのこと。今回「月」を見ることは出来ませんでしたが、参加された入所者の楽しそうな笑顔を見ることができ、「開催出来て良かった。」と思いました。最後に、参加された入所者の皆様、ご協力いただきました職員の皆様に心より感謝いたします。

病棟サービス委員 山路 郁美





防火訓練の実施



去る10月27日(木) 13:30より、平成28年度第1回目の防火訓練を実施しました。今回の訓練種目は総合訓練(通報、消火、避難)、時間帯を昼間(甲編成)、出火場所をゆらいの郷湯沸室、模擬入所者4名(ベッド2名、車椅子2名)という想定で行いました。

訓練当日、朝からの天候は晴れ時々曇りの無風状態で絶好の訓練日和。先週まで降り続けていた雨も今週は降ることもなく一先ずホッとひと安心。

10:00と11:00の会議の合間を縫って準備に勤しむ中、ゆらいの郷のスタッフ等が熱心に打合せを行っている姿を尻目に「本日はよろしく」と心の中で呟きながら出火元の立て札を設置しました。

後は本番を待つのみ。

13:00頃消防設備業者、および消防署(3名)が順次到着。車両の駐車位置を指示した後、簡単な打合せを済ませ出火元、2F事務所、本部・避難場所の3箇所に分かれスタンバイしました。

訓練は予定どおり13:30より開始。第一発見者(看護師)の「訓練火災発生」と女優張りの鬼気迫る一声により訓練が始まりました。火災警報器の作動 → 通報 → 初期消火 → 医療ガスのバルブ締め → 点呼 → 避難準備と現場のスタッフが慌ただしく動いている中、13:31に訓練火災の園内放送が流れ、間もなくして自衛消防隊が到着しました。自衛消防隊は消火隊、避難誘導隊、物品搬出隊、救護隊に編成されており、消火隊は消火器、屋内消火栓による消火活動を、避難誘導隊は逃げ遅れた入所者の避難活動を、物品搬出隊はスタッフステーションにある重要物品(カルテ等)の搬出を、救護隊

は本部に避難してきた入所者の救護と各々のミッションを手際よくこなしていきしました。

避難が粗方完了したところで本部へ移動したところ外を見渡すと午前中の天気はいずこへ……。一面薄墨色の空が広がりしかも雨……。雨? 雨! 出火元周辺は外に面する窓がないため、近くで待機していた自分には、ゆらいの郷を出るまで外の様子が分からず思わず面喰い、「後の消火器や消火栓の訓練どうしよう」という戸惑いと「午前と午後が逆だったら」とやるせない思いが同時に込み上がってきました。

13:36に本部にて避難完了の報告があり、鎮火放送が流れ一連の訓練は終了しました。

消防署の講評では、訓練に対する職員の真摯な姿勢もあり、とても良い有意義な訓練だったとの好評価を受けることが出来ました。なお講評の中で、実際の火災時に通報装置を使用する場合、ボタンを押下したら一端安全な場所に避難して、後でまた詳細を消防署へ電話するようにとの話もありました。消防署の方では、通報装置を起動するだけで何処から通報があったか分かるとのことでした。

なお訓練終了後に予定していた消火器を使つての消火訓練や、屋外消火栓の放水訓練は雨のためやむなく中止。急遽治療棟にて消防士による屋内消火栓、消火器の取扱説明を実施して訓練はすべて終了しました。

解散後誰もいなくなった避難場所にて、後片付けをしているところにやっと雨が上がり、空を眺めながら恨めしく思う次第でした。

実際の火災時はすべてが訓練のように
は行きませんが、訓練を経験しておかな
いと、実際の火災時には絶対動けないと

思います。今後も定期的に実施しますの
で多くの職員の参加をお願いします。

庶務班長 島田 登志男



南大島バスレクリエーションに参加して

6年前のこの頃（10月中旬）は、奄美豪雨災害。

昨日まで降り続き心配された雨が止み、レクリエーション当日（10月25日）は晴天に恵まれ、入所者5名と共に南大島へ出かけました。

行きは、山羊島トンネルから朝戸トンネル等を抜け、三太郎トンネルを通過し、景色を眺めながら、入所者から「ここは、トンネルが無かったその昔、車で通ったがとてもカーブが多く、車酔いをする場所だった。峠の上の方には茶屋があった。」「この辺りは、畑ではなく一面田んぼだった。田んぼにはメダカやウナギがいて、そのメダカを餌にして魚釣りをしたもんだよ。」「ここは〇さんの故郷。」「友達とトンネルの数を数えたもんだ。」と旅立たれた寮友を偲び、そして懐かしみながら片道約2時間かけ宇検村のタエン浜に到着しました。日中気温29度、セミの



帰りは大和村回りで、途中の宇検村の部連海岸では3羽のシラサギを、山々にはススキが見られ、秋への移り変わりを感じながら大和村名音の長瀬トンネル等を抜け約2時間の帰途につきました。往復で通過したトンネルの数は、和光トンネルを最後に19か所でした。

皆様、長旅お疲れさまでした。またご一緒させてください。

- * 1 アマン
(方言：学名ムラサキオカヤドカリ)
- * 2 ティダ (方言：太陽の光)
- * 3 とうとがなし
(方言：尊尊我無と書き感謝の意)

不自由者棟看護師 吉田 美和子



鳴き声を聴きながらお弁当をいただき、海辺を散策していると碧々としたアダンの下を歩くアマン^{*1}に出会い、共に記念撮影をしました。久しぶりのティダ^{*2}でキラキラ光る焼内湾と自然の恵みにうっとりしながら、とうとがなし^{*3}と気持ちを込めました。



第28回 ハンセン病コ・メディカル学術集会に参加して

平成28年10月14日～15日までの2日間、宮城県仙台市の産業プラザホールにおいて第28回ハンセン病コ・メディカル学術集会が開催され、各療養所より約150名の職員の参加がありました。今回のテーマは「大切にしたいあなたとの絆」でした。開会式では東北新生園の横田隆園長より、「東日本大震災を経験し復興に向けて皆で手を取りあって支え、今につながっている。だからこそ人と人との絆を大切にしていきたい。テーマの『あなた』とは入所者、職員の双方である。」という説明がありました。また特別講演では、長島愛生園で基本治療科の医師をされていた尾崎元昭先生の「ハンセン病医療の歩み」についての講演もありました。和光園からは、吉原総看護師長、西濱師長、不自由者棟介護員の山田博美、中山照美と川畑の5名が参加しました。今回は川畑が「エンドオブライフ」の口演部門の座長、不自由者棟介護員が「生きがい」の口演部門での発表をしました。

今回、座長としてコ・メディカル学術集会への参加は2回目となりました。東北仙台へは初めて行きましたが、震災後5年が経過した今、実際の街の中心部は人々の明るい笑顔や活気であふれており、復興への力強さを感じました。私が座長を務めた「エンドオブライフ」の口演部門では、各療養所での様々な取り組みが

報告されました。中でも介護員によるユマニチュード技法を用いた介護の関わりとして、3年間車椅子で生活されていた入所者がシルバーカーでの自力歩行が可能になったという結果から、安全という名目で入所者の歩く力を奪っていたのではないかという職員の気づきがあり、新しいケアを取り入れた学びの成果が報告されていました。入所者一人ひとりの思いを知り、意思や生きがいを尊重しながら「その人らしく」過ごせるよう関わるのが、エンドオブライフに繋がるということを改めて強く感じました。緊張しながらも無事座長の役割を果たすことが出来ました。

また、最後の口演部門では、吉原総看護師長が、「一般舎で在宅終末期ケアを提供する時の職員の役割」について発表されました。療養所では、一般舎での看取りの取り組み自体が初めてであり、他施設より発表に感銘を受けたとの声がきかれました。今回の学びを今後の入所者へのケアに活かせるよう努めていきたいと思います。

今回このような機会を頂き心より感謝申し上げます。

不自由者棟
副看護師長 川畑 恵理

第28回ハンセン病コ・メディカル学術集会に参加させて頂きました。

開催地は牛タンと笹カマボコで有名な仙台市。東日本大震災から5年が経過し破壊された道路や橋などの修復は徐々に改善している状況でしたが、未だに帰宅できない被災者も多く居るとのことでした。

私達は1日目の口演発表で「不自由者棟入所者が望むレクリエーションのあり方」というテーマで7分間という限られた時間で発表しました。多くの方を目の前にしてとても緊張しましたが、無事に発表を終えることが出来ました。学会では多数の看護・介護研究発表が行われ、「生きがい」「エンドオブライフ」「終末

期と看取り」に関する内容も多く、今後の関わりについて深く考えさせられる内容であり、今後のケアに活かしていきたいと思いました。貴重な機会を頂き、また発表に至るまでご指導・ご協力を頂いた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

不自由者棟介護員

山田 博美・中山 照美



平成28年度 実習指導者講習会に参加して

平成28年8月17日から10月14日まで福岡市の国立病院機構九州医療センターで実習指導者講習会を受講しました。

「看護教育における実習の意義及び、実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるための必要な知識・技術を習得する」ことを目的に講義やグループワークに取り組みました。研修前は、学生の消極的な姿勢・反応などにもどかしさを感じることが多々ありましたが、青年心理や教育方法、現在の看護教育のカリキュラムを学び今までの自己の指導方法を振り返ることができました。学生の学ぶ権利の尊守や教育内容や学生のレディネスに合わせた指導方法、形態を選択することが指導者の大きな役割であることを学びました。

今回、初めて二か月という長期の研修

に参加し、今までの自己の看護・実習生との関わりを見つめ直す良い機会となりました。また、他施設の研修生と学びを深めていく中で和光園での取り組んでいる看護に自信を持つこと、専門職として自己研鑽に努めていく姿勢を学ぶことができました。

最後にこの研修に参加させて下さった園長先生、総看護師長、副総看護師長をはじめ、病棟師長、スタッフのみなさまの応援・協力を心より感謝いたします。

病棟看護師

篠原 夕姫



新人紹介



不自由者棟 看護師 則岡 静香 (のりおか しずか)

この度、9月1日付けでゆらいの郷に勤務しております看護師の則岡静香です。6年前に奄美看護福祉専門学校を卒業し奄美病院に勤務していました。以前より和光園では入所者一人ひとりに合わせた細かな看護、介護の実践がされていると聞いていました。働いてみてその細かさや統一されたケアに驚かされるとともに働くことへのやりがいを感じています。まだ慣れないことばかりですが、一日も早く仕事を覚え、入所者がその人らしく心穏やかな生活が送れるように頑張っていきます。



短歌

青 昂

ふんわりと

秋津^{あきつ}おいたる すすきの穂

色づく山を 仰ぎて笑みぬ^え

青白き

閑かさ^{しづ}の夜に 光清^{かげす}みて

まつげも撓^{たわ}む 鈴虫の声

花になり

果^{このみ}とならむ 草木の

朝露^{あしたつゆ}おく 静寂^{しじま}の裾に

山の端^はの 清^{さや}けし月の いざなえる

光^{かげ}にたゆたう ひとひらの雲

和光文芸

お知らせ

外来受付時間が
12月1日より
変更になります。

診療科	皮膚科・一般診療
診療日	月曜日・火曜日・金曜日
手術日	木曜日（予約制）
休診日	水曜日・土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始
受付時間	12:00～15:00(平成28年11月30日まで) 12:30～15:00(平成28年12月01日から) (電話受付は受けたまわっておりません)
診療時間	13:00～16:00

人事異動

(平成28年9月1日～平成28年10月31日)

H28. 9. 1 則岡 静香

看護師(臨)

採用

和光園日誌

(平成28年9月1日～平成28年10月31日)

H28. 9. 7 一般入院 90才男性
 9. 12 一般入院 68才男性
 9. 15 敬老祝賀会
 9. 20 一般入院 82才男性
 10. 8 親善グートボール大会
 10. 17 お月見・焼き芋会
 10. 20 県庁訪問(～10/21)
 10. 20 一般入院 90才男性
 10. 25 園外レクリエーション(南大島)
 10. 27 防火訓練

編

集

後

記

最近めっきり朝晩は寒くなってきました。空気が乾燥しインフルエンザが流行し始める時期です。

感染予防の方法として、「手洗い・うがい」「十分な睡眠とバランス良い食事」「マスク」「湿度の調整」などです。日頃のちょっとした心がけで感染の可能性を低くすることができます。

流行が心配される時期にはいりました。早い時期から予防策を徹底し、インフルエンザに罹らずに元気に過ごしましょう。

編集委員 佐藤 剛